朝禮拜式及聖晩餐禮典執行順序

朝禮拜式及聖晩餐禮典執行順序

朝禮拜式及聖晩餐禮典執行順序

第一　朝禮拜式執行順序

（始めに聖靈降臨の讃美歌を謠ふも可也、會衆は起ち會師は聖卓の側に立ちて、左の如く云ふべし。）

聖父と聖子と聖靈の聖名によりて。

（會衆は左の如く謠ひ又は唱ふべし。）

アーメン。

懺悔

（次に左の懺悔をなすべし。）

主にありて愛する兄弟姉妹よ、我等眞心を以て聖父な

る神の聖前に來り、我等の罪科を懺悔し、其恕赦を、主イエスキリストの聖名によりて希ひ奉るべし。

（會師會衆共に跪き、あるひは立ちて次の言を謠ひ又は唱ふべし。）

會師　我等の佑助はヱホバの聖名にあり。

會衆　ヱホバは天地を創造り給へり。

會師　我謂らく我が愆をヱホバに言顯はさんと。

會衆　主は我が罪科の邪曲を宥し給へり。

（次に會師は云ふべし。）

我等を創造り我等を贖ひ給ひし全能の神よ、我等生れながら罪科ありて潔きことなく、且つ我等思念と言語

と行爲とを以て、罪科を犯しゝことを謹んで懺悔し奉る。故に我等主イエスキリストの功績に因りて主の恩惠を求め、其の限量なき憐恤に依り頼み奉る。

（會衆は會師と共に云ふべし）

我等に代りて死する爲に、惟一の聖子を與へ給ひし最も憐み深き神よ、願くは我等を憐み、聖子に因りて凡ての罪を赦し給へ又聖惠を以て無窮生命に到らん爲に、聖靈に依りて我等に益すく深く聖旨を曉らせ、又常に聖語に應順はせ給へ。此等の祈禱を主イエスキリストに依りて献げ奉る。アーメン。

（次に會師は立ちて唱ふべし。）

天の父なる全能の神は我等を憐み我等に代りて死する爲に其の獨子を與へ給へり。而して彼に因りて我等の罪を悉く宥し給ふ。主は又其の聖名を信ずる人々に神の子と成らん爲に權力を與へ、且つ聖靈を與へんと約し給へり。故に信じて洗禮を受る者は救はるべし。主よ願くは此の恩惠を我等に與へ給へ。

（次に會衆は唱ふべし。）

アーメン。

（次に會師會衆共に當日の讃美頌を謠ひ又は唱ふべし、但し特禱の終るまで皆續いて立つべし。）

讃美頌

(讃美頌とグロリア、パートリは唱歌隊之を謡ふも可也。讃美頌は會師之を誦し、グロリア、パートリは會衆之を謡ひ或は誦するも可也。讃美頌の代りに詩篇若くは讃美歌を用ふるも可也。)

グロリア、パートリ

聖父ど聖子ど聖靈に榮光あれ。元始にありし如く現今もあり世々無窮あるべし。アーメン。

キリエ

(キリエは會師會衆共に謡ひ又は唱ふるも可也。或は始に會師之を誦し、會衆之に和して謡ひ又は唱ふるも可

也）

主よ、憐み給へ。
キリストよ憐み給へ。
主よ憐み給へ。

（次に左のグロリア、イン、エキセルシスを謠ふべし。但し祝日及び聖餐の禮典を執行ふ時の外は、讃美歌を代用するも可也）

グロリア、イン、エキセルシス

（會師は唱ふべし。）
天上こころには、榮光神にあれ。
（會衆は謠ふべし。）

天上ところには、榮光神にあれ。地には平安、人には恩澤あれ、全能の父、天の王、主なる神よ、我等主を頌め、主を讃へ、主を拜み、主を崇め、主の大なる榮光の故に、感謝し奉る。

神の生み給ひし獨子、主イエスキリスト、世の罪科を除き給ふ神の羔、聖父の聖子、主なる神よ、我等を憐み給へ。世の罪科を除き給ふ主よ、我等の祈禱を享け給へ。聖父、の右に座し給ふ主よ、我等を憐み給へ。キリストよ、主のみ聖なり、主のみ王なり、主のみ聖靈と共に聖父の榮光の中に在して最も高し。アーメン。

（次に會師は唱ふべし）

願くは主汝等と共に在さんことを。

（會衆は謠ひ又は唱ふべし）

願くは主汝の靈と共に在さんことを。

（會師は唱ふべし）

我等祈るべし。

（次に會師は當日の特禱を唱ふべし）

特禱

（特禱終りて會衆は謠ひ又は唱ふべし）

アーメン。

（次に會師は當日の使徒書を讀むべし。使徒書を讀む前

に聖書の他の所を讀むは可なるも、當日の日課を省くべからず。會師は使徒書を讀む前に、左の如く報告すべし。)

……日の使徒書は……書第……章……節より始まる。

當日の使徒書

(使徒書を讀み終れば會師は云ふべし。)

使徒書は終る。

(次に會衆はハレルヤを謠ひ又は唱ふべし。但し受難節には之を除くべし。)

ハレルヤ、ハレルヤ、ハレルヤ。

(ハレルヤの代りに左の聖節詞を謠ふも可也。又ハレル

ヤに續けて詩篇若くは讃美歌を謠ふも可也）

ハレルヤと聖節詞

降臨節

ハレルヤ。エホバよ汝の憐憫と仁慈とは古昔より絶ゆることなし。エボバよ此れを思ひ出し給へ。ハレルヤ。

現異邦節

ハレルヤ。諸々の國よ、主を讃めまつれ。諸々の民よ、主を稱へまつれ。そは我等に賜ふ其の憐憫は大なればなり。エホバの眞實は永遠にたゆることなし。

受難節

キリストイエスは自己を卑くし、死に至るまで順ひ、十字架の死をさへ受くるに至れり、

復活節

ハレルヤ。我等の逾越、即ちキリストは屠られ給へり。ハレルヤ。

聖霊降臨節

ハレルヤ。なんぢ聖霊を出し給へば、百物皆創造らる。如此してなんぢ地の面を新にし給ふ。ハレルヤ。

三位一体主日より降臨節に至る。

ハレルヤ。願くは汝の憐憫に従ひて、汝の僕を待遇ひ給

へ。我に汝の法律を教へ給へ。我は汝の僕なり。我に智慧を與へて、汝の證詞を知らしめ給へ。ハレルヤ。

（次に會師は當日の福音書を報告すべし）

聖なる福音書は……傳第……章……節より始まる。

（會衆は謠ひ又は唱ふべし）

願くは主に榮光あらんことを。

（次に會師は其日の福音書を讀むべし）

當日の福音書

（福音書を讀み終れば會師は云ふべし）

福音書は終る。

（次に會衆は立ちて謠ひ又は唱ふべし）

願くはキリストに頌榮あらんことを。

(次に會師會衆共にニケヤ信經、若くは使徒信經を誦し又は謠ふべし。但し聖餐禮典を執行ふ時には、ニケヤ信經を用ふべし。)

ニケヤ信經

我は惟一の神、全能の父、天地と凡て見ゆる物と、見へざる物の創造主を信ず。我は惟一の主、イエスキリストを信ず。主は萬世の前に聖父より生れたる惟一の聖子、神よりの神、光よりの光、眞正の神よりの眞正の神、造られずして生れ、聖父と一体なり。萬のもの主によりて造られたり。主は我等人類

のため、又我等を救はんが爲に、天より降り、聖靈により
て處女マリアより肉體を禀け、人性を取り、我等の爲に
ポンテオピラトの時十字架に釘けられ、苦楚をうけ、葬
られ、聖書に應ひて第三日に甦り、天に昇り、聖父の右に
坐し給へり。又榮光を以て再び來り、生る人と死る人と
を審判き給はん。其の國は終ることなし。
我は聖靈を信ず。聖靈は生命を與ふる主、聖父と聖子よ
り出で、聖父と聖子と共に拜み崇められ、預言者により
て語り給ひし主なり。我は使徒等より傳りし、惟一の聖
なる基督教會を信ず。罪科の恕赦を得る惟一の洗禮を

信認す死し人の復活と來世の生命とを望む。アーメン

使徒信經

我は天地の創造主、父なる全能の神を信ず。

我は、其の獨一子、我等の主イエスキリストを信ず。主は聖靈によりて胎り、處女マリアより生れ、ポンテオピラトの時苦楚を受け、十字架に釘けられ、死て葬られ、冥府に降り第三日に死人の中より甦り、天に昇り、父なる全能の神の右に坐し給へり。彼處より來りて生る人と死る人とを審判きたまふべし。

我は聖靈を信ず。又聖なる基督教會即ち聖徒の交際、罪

科の怨赦、身體の復活、窮なき生命を信ず。アーメン

(次に會衆は讃美歌を謠ひ、會師は講壇に上り謠ひ終りて說教すべし。)

說教

(說教終りて會衆は立ち會師は唱ふべし。)

願くは、神より出て人の凡て思ふ所に過る平安、爾曹の心と意を、キリストイエスによりて守り給はんことを。

アーメン

(次に詩篇の一つを誦し終りて會衆は坐すべし。左の詩篇の一つを用ふるか、又は他の適當なる詩篇を用ふるも可なり。)

詩篇

第一

神の要めたまふ祭物は、碎けたる靈魂なり。神よ爾は碎けたる悔し心を藐しめ給ふまじ。願くは聖意に順ひてシオンに祝福し、エルサレムの石垣を築き給へ。其時なんぢ義の供物と燔祭と全き燔祭とを悅び給はん。

第二

嗚呼神よ、我爲に淸き心を造り、わが衷に直き靈を新に起し給へ。我を靈前より棄て給ふなかれ。汝の聖き靈を我より取り給ふなかれ。汝の救の喜を我に歸し、自由の

靈を與へて我を保ち給へ。

(會衆中より献金を集めて會師に呈し、會師は之を受けて聖卓の上に置くべし。若し會衆中に特別の祈禱、代願感謝を望むものあらば、玆にて之を報告すべし。又會員中に就眠者あらば報告すべし。次に總禱をなすべし。左の總禱を用ふるも可なり。但し聖餐の禮典を執行はざる時は、歎願又は特禱より選べるものか、其の他適當なる祈禱をなすも可なり。)

總禱

最憐恤深き全能の神、主イエスキリストの父よ、我等に聖恩を垂れ、殊にその聖子を與へ、また聖旨と聖惠とを

顯現し給ひしことを感謝し奉る。願くは我等の心に主の聖語を植ゑ、我等正直に之を保ち、耐忍びて善事を行ひ、實を結ぶことを得さしめ給へ。

願くは普き基督教會及び其の教師牧師を護り、彼等をして聖語の聖き教理を保ちてますく神を信じ、ますく人を愛する心を起さしめ給へ。

願くは凡て權威を有てる者、殊に天皇陛下諸大臣及び其他諸司百官に、健康と幸福とを與へ、且つ我等が敬虔と正直とを以て安穩に世を送らんが爲に、彼等が義を支持ち惡を防ぎ且つ罰し聖旨に從ひて統治るの聖惠

を彼等に與へ給へ。

願くは我等に敵對する者が其の怨恨を棄てゝ、平和に我等と相交らんが爲に、彼等の心を飜し給へ。

願くは艱難、貧苦、疾病、出產の苦痛ある者、死に瀕する者、其の他の不幸ある者、殊に主の聖名と眞理との爲に苦しむ者を、聖靈を以て慰藉め、彼等をして此等の苦難は主の慈愛深き聖旨の顯現として、之を受け、かつ耐へ忍ばしめたまへ。

最と憐み深き父よ、我等は主の義しき怒と種々の罰とを受くべき者なれども、願くは我等の若き時の罪科と、

多くの愆とを聖心に留め給はず、深き聖恩と憐恤とを以て、身体と靈魂の凡ての害と危難とより我等を守り給へ。願くは異端、邪説、戰爭、殺傷、疫病、洪水、火災、暴風、凶作、饑飢より、又心の痛みと、聖惠を得べき希望を失ふことゝ、無慘の死より我等を護り、且つ艱難に際し、主が凡ての人、殊に信ずる者の最も近き救主たらんことを。願くは四季折々に、地の必要なる産物を用ふることを得る爲に、之を護り給へ。願くは青年の基督教主義教育と、海陸に於ける凡ての正當なる職業と、凡ての純潔なる藝術並に有益なる智識とに成効を與へ、是等に主の

祝福を蒙らせ給へ。

（特別の祈禱、代願、感謝あらば、玆にてなすを得。）

神よ願くは此等と其の他の願ふべきものを、獨一の聖子我等の主にして救主たるイエスキリストの酷しき苦楚と死の功績によりて我等に與へ給へ。主は聖父と聖靈と共に永遠に一の神にして世々に活在して統御め給ふ。

（次に會師會衆共に主の祈禱を献ぐべし）

天に在す我儕の父よ、願くは爾名を尊崇させ給へ。爾國を臨らせ給へ。爾旨の天に成る如く地にも成せ給へ。我

儕の日用の糧を今日も與へ給へ。我儕に罪を犯すものを我儕がゆるす如く、我儕の罪をも免し給へ。我儕を試探に遇せず。惡より拯出し給へ。國と權と榮とは爾の窮なく有ち給ふ所なればなり。アーメン。

(次に讃美歌を謠ふべし。聖餐の禮典を執行はざる時は、頌榮の歌を謠ひ、會師聖卓の側に立ち祝禱をなし、祝禱終りて會衆默禱すべし。)

祝禱

願くはヱホバ汝を惠み汝を護り給へ。願くはヱホバ其の顏を以て汝を照し汝を憐み給へ。願くはヱホバ其の

顔を上げて汝を顧み汝に平安を給はんことを。

（會衆は謠ひ又は唱ふべし）

アーメン。

第二　聖晩餐禮典執行順序

（會衆總禱後の讃美歌を謡ふ間に、會師聖卓に進み行きて聖餐器を取揃へ、聖禮典執行の準備をなすべし。謡ひ終りてアグナス、デイの終るまで會衆立つべし。）

奠辭

（會師唱ふべし）

願くは主汝等と共に在さんことを。

（會衆謡ひ又は唱ふべし。）

願くは主汝の靈と共に在さんことを。

會師　汝等の心にて主を仰げよ。

會衆　我等仰ぎて主を望まん。

會師　我等神に感謝し奉らん。

會衆　そは正當にしてなすべきことなり。

會師　至聖き父、永遠に在す全能の神よ、何時何處にても主に感謝し奉るは眞實に正當にしてなすべき務なり。

（續いて聖節適用語を讀むべし適用語あらざれば直に『故に我等天使と……』を讀むべし）

聖節適用語

降誕日

道肉體と爲りし奥義に因りて主は其の榮光を新に啓示し給へり。是れ我等をして聖子に由りて主を見、未だ見ざる所のものを愛せしめ給はんが爲なり。(故に我等天使と……)

受難節

主は十字架の木の上に於て、救拯を人類に與へ給へり。是死の起りし所に生命も亦起り、一たび木を以て勝利を得し者は、又我等の主イエスキリストに因りて木にて征服せられんが爲なり。(故に我等キリストによりて天使と……)

復活節

殊に聖子我等の主イエスキリストの尊き復活の故により主を頌め奉る。聖子は眞實の逾越の羔にして我等のために犧牲へられ、世の罪を除き、其の死を以て死を亡ぼし、其の復活を以て窮なき生命を與へ給へり、（故に我等天使と……）

昇天日

殊に我等の主イエスキリストの昇天の故により感謝し奉る。聖子は復活の後、公明に其の弟子達に顯はれ、其の眼前にて天に昇り給へり。是は我等をして彼の神た

る性質に與らしめんが爲なり。(故に我等天使と………)

聖靈降臨日

主の愛しみ給ふ聖子、我等の救主イエスキリストは、天に昇りて神の右に坐し、約束によりて選ばれし弟子等に、此の日聖靈を灑ぎ給へり。これに因りて全地は大なる喜悦をなし、我等も亦感謝し奉る。(故に我等天使と………)

三位一体祝節

主はその生み給へる獨子及び聖靈と共に、惟一の神にしてまた惟一の主なり。我等は惟一の眞の神を三位に

して一体稜威等しき主として拜み奉る。(故に我等天使と……)

(適用語に續て直に左の如く唱ふべし。)

故に我等、天使と天使の長及び天の會衆と共に、主の尊き聖名を敬崇め常に主を頌讚て云はん。

(次に會師會衆共にサンクタスを謠ひ又は唱ふべし。)

サンクタス

聖なる哉聖なる哉萬軍の神主の榮光天地に充てり。至高き所にホザナよ。

主の聖名によりて來るものは幸福なり。

いと高き所にホザナよ。

（次に會師左の奬勵を爲すべし）

奬勵

愛する兄弟姉妹よ、我等の主イエスキリストの聖餐に陪せんと欲せば、使徒パウロが勸めし如く深く自らを反省すべし。そは此の聖餐典は、謙遜なる心を以てその罪を懺悔し且つ饑渴くが如く義を慕ふ者に、慰藉と勢力とを與へんが爲に主の設け給ひし聖奠なれば也。

然るに我等斯く自らを反省する時は、己が力にて脫れ難き罪と死との外何物をも見出さざるべし。故に我等

の主イエスキリストは憐憫を垂れ、我等の爲に神の聖旨と律法の命ずる所を全ふせんとて自ら人性を取り、我等に代りて我等の受くべき死と苦とを受け給へり。我等をして此の事を深く信じ且つ信仰に因りて強められ、快く聖旨に從はしめんがために、主は此の聖餐の禮典を設け給へり。主はこの聖餐によりてその體と血とを糧として我等に與へ給ふなり。故にキリストの聖語を堅く信じてこの麵包を食ひ此の杯より飮まば、キリストはその人に居り其の人はキリストに居りて、窮なき生命に與ることを得るなり。

我等も亦此の聖餐を守りてキリストの死を表示し、我等の罪の爲に賣され、我等が義とせられんが爲に復活り給ひしことを記憶え奉るべし。又我等これによりて眞心よりキリストに感謝し、十字架を負ひて主に從ひ且つ其の命令を守り、キリストの我等を愛し給ふ如く我等互に相愛すべし。そは我等皆この一つの麵包を食ひ此の一つの杯より飮むを以て、共に一つの麵包一つの体と成ればなり。

(次に聖卓に向ひて唱ふべし。)

我等祈るべし。

天に在す我儕の父よ、願くは爾名を崇めさせ給へ。爾國を臨らせ給へ。聖旨の天に成る如く地にも成せ給へ。我儕の日用の糧を今日も與へ給へ。我儕に罪を犯すものを我儕が免す如く、我儕の罪をも免したまへ。我儕を試探に遇せず。惡より拯出し給へ。國と權と榮とは爾の窮なく有ちたまふ所なればなり。

（次に會衆は謠ひ又は唱ふべし。）

アーメン。

（次に會師は唱ふべし。）

われらの主イエスキリスト賣さるゝ夜、麵包を取り（此

の時皿を手に執るべし)謝して後これを擘き、弟子たちに與へて曰ひけるは、取りて食せよ、此は爾曹の爲に與ふる我躰なり、爾曹如此おこなひて我を記憶えよ。食して後また杯をとり(此の時杯を執るべし)謝して彼等に與へて曰ひけるは、爾曹皆此の杯より飮め、此は新約の我血にして罪を赦さんとて爾曹及び衆人の爲に流す所のものなり、爾曹如此おこなひて飮む每に我を記憶えよ。

(次に會師は唱ふべし。)

願くは主の平安常に汝等と共に在さんことを。

（次に會衆アグナスデイを謠ひ又は唱ふべし）

アグナスデイ

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、我等を憐み給へ。

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、我等を憐み給へ。

世の罪を除き給ふ神の羔なるキリストよ、主の平安を我等に與へ給へ。

（次に分餐式を始むべし。會師麵包を配する時左の如く云ふべし。）

取りて食せよ、是は汝の爲に與へ給ひしキリストの體なり。

（會師杯を附す時左の如く云ふべし）

取りて飲めよ、是は汝の罪の爲に流し給ひし新約の血なり。

（陪餐者を復席せしむる時、會師左の如く唱ふべし）

願くは我等の主イヱスキリストの體と其の尊き血とは、眞實の信仰に於て汝等を強め、窮なき生命に至るまで護り給はんことを。

（若し中間にて聖別したるもの盡きなば、會師は前記の

聖別文を讀みて、更に他の麵包或は葡萄酒を聖別すべし。配餐終りて後、會師殘れる聖品を恭しく覆ふべし。次に皆立ちてナンク、ディミッチスを謠ひ又は唱ふべし。

ナンク、ディミッチス

主よ爾はその言に從ひて僕を安全に世をば逝せ給ふ。そはわが目既に萬民の前に設け給ひし救を見たればなり。

これ異邦人を照さん光なり、また爾の民イスラェルの榮なり。

聖父と聖子と聖靈に榮光あれ。

元始にありし如く現今もあり世々窮なくあるべし。

アーメン。

（次に左の如く感謝すべし）

會師　エホバに感謝せよその恩惠は深し。

會衆　主の憐恤は永遠に絶ゆることなし。

會師　全能の神よこの有益なる恩賜を以て我等を養ひ給ひしことを感謝し奉る。願くは主の聖惠によりて我等を強め、我等益々神を信じ、益々互に相愛することを得させ給はんことを、聖子我等の主イエスキリストによりて希ひ奉る。主は聖父と聖靈と

共に永遠に一の神にして世々に活在して統御め給ふ。

會衆　アーメン。

（次にベネディカムスを謠ひ又は云ふべし。）

ベ子ディカムス

會師　願くは主汝等と共に在さんことを。

會衆　願くは主汝の靈と共に在さんことを。

會師　主を頌榮奉るべし。

會衆　感謝は神に歸せんことを。

（次に會師左の祝禱をなすべし。但し哥林多後書十三章

十四節の語を代用するも可也。祝禱終りて會衆は默禱すべし。）

祝禱

願くはヱホバ汝を惠み汝を守り給へ。

願くはヱホバその顔を以て汝を照し汝を憐み給へ。

願くはヱホバその顔を上げて汝を顧み汝に平安をたまはんことを。

（會衆は謠ひ又は唱ふべし。）

アーメン

病者の聖餐典に就て。

（神の聖語によりて教へられ、又慰めらるゝ病者に聖餐

典を執行せんとする時は、牧師聖詩第八十篇か又は第廿五篇と約翰傳第三章十六節とを誦へて、禮典を始むべし。次に備へられたる卓子の上に麵包と葡萄酒とを置きて、主の祈禱をなし式文を讀むべし。式文は『汝心にて主を仰げよ』より全文を用ふるも可也。)

懺悔式(聖晩餐禮典執行の準備式)

聖晩餐の禮典は所定の樣式に基きて一年間に少くとも四度、即ちクリスマス、復活日、聖靈降臨日、及び聖靈降臨日とクリスマスとの間の日曜日に執行すべし。牧師は禮典執行の日時を定めて講壇より之を報告すべし。禮典に陪せんと欲する者は準備式執行前に之を牧師に報告すべし。陪餐者の氏名は教會の帳簿に記載し置くべし。長老は姓名記載後直に其の帳簿を調査し、若し陪餐を禁止し若くは教會より除名せられたる者の氏名を見出さば、其の人が教會に於ける地位を恢復するまで陪餐せしむべからず。此の式は成るべく聖晩餐禮

典執行の前日に行ふべし。而して陪餐者は必ず出席すべし。始に説敎又は勸話をなして、各自深く自己を顧み、謙遜と眞實なる心とを以て罪科の懺悔をなす必要を勸むべし。然る後會衆は起ち、會師聖卓の側に立ちて云ふべし）

愛する兄弟姉妹よ。我今知らざることなき全能の神の聖前に於て、汝等の良心に訴へ、左の事を問ふ。

汝等は生れながら罪人なるのみならず、自己の本分の怠慢及び邪惡なる思想、希望、言語、行爲によりて、汝等の主なる神と救主とを憂へしめ、また怒らせ奉りしこと

ゝ、汝等は聖前より退けられて、窮なき刑罰に處せらるべき者なる事を、眞實に認めて心より之を悔るや。汝等の認識眞に如斯ならば、然りと曰ひて懺悔すべし。

イエスキリストは罪人を救はんが爲に世に降り給ひしこと、又その聖名を信ずる者は罪の恕赦を受くること を眞實に信ずるや。汝等其の罪と咎とより救出さるゝことを切に願ふや。又我等の天の父はイエスキリストの故によりて、汝等を惠みて罪を赦し、不義を潔め、己れの爲に汝等を聖別し給ふ聖旨ありと信ずるや。汝等の信仰眞に如斯ならば然りと曰ひて懺悔すべし。

汝等謹みて神の聖前に歩み、勉めて各種の悪しきことを捨て正事を行ひ、日々益々その心を聖くして世を渉らんが爲に、己を聖靈の祐導に委ぬることを深く決心するや。汝等の目的眞に如斯ならば神及び會衆の前に然りと曰ひて懺悔すべし。

我等恭しく跪きて共に懺悔の祈禱をなすべし。

（次に皆跪きて共に云ふべし。）

最憐み深き全能の父よ、我等聖前に屢々罪を犯せしことを謹みて懺悔し奉る。我等は公然に行爲によりてのみならず、又私かに汚れたる心の思念と情慾とを以て

多くの罪を犯せり。主は悉く之を知り給ふも、我等明白に之を曉りて懺悔すること能はざりし。我等は今此等多くの罪を認めて眞に悲み衷心より之を悔ひ、主より罪を赦され愆を蔽はるゝ者の受くべき福祉に與り、主が悲む者に約束し給へる慰藉を受けんことを偏に願ひ奉る。又今より罪の行爲を改めて、一層正く世を送らんことを決心す。主よ願くは聖靈の助により、此の決心を實行することを得さしめ給へ。

殊に願くは今聖餐に與らんとする我等をして、饑渇くが如くに朽ちざる麵包と活ける水とを慕ひて、正しく

準備を成さしめ、又主より惠に惠を加へられて信仰を固くし、猶能く主を愛し、主に事へ、且つ兄弟に對する愛の行爲によりて、主に對する我が信仰と愛とを顯すことを得さしめ給へ。

在天の父の神よ我等を憐み給へ。世の贖罪主なる神よわれらを憐み給へ。聖靈の神よ我等を憐みて汝の平安を我等に與へ給へ。アーメン

（次に會師起ちて左の如く云ふべし）

汝等今如斯その罪を懺悔したるが故に我基督教會の牧師たる職權を以て、凡て眞に悔改め眞心より信仰し、

聖靈の聖助によりて、今より行を改め敬虔の生涯を送らんとする人々に、聖父と聖子と聖靈の聖名によりて罪の赦免を宣言す。されど剛腹若くは僞善にして悔改めず、罪の生涯を猶續けんとする者には、罪の赦されざること、不義は遂に必ず罰せらるべきことゝを、神の聖言と我等の主イエスキリストの聖名によりて、我は又之を示す。故に聖惠の日の盡きざる中に、悪しき業を棄て、眞に罪を悔改め、信仰を以てキリストに立ち歸らんことを勸め、且つ祈る。

神よ願くは我儕を憫みて、その罪より我儕を救出し且

つ之を赦し、我儕を凡ての善に堅くなして、遂に窮りなき生命に至ることを得させ給へ。我等の主イエスキリストに因りて希ひ奉る。

(次に會師會衆共に主の祈を唱ふべし。會衆は立つべし、
次に平安の特禱をなし終りて祝禱を唱ふべし。)

大正三年八月十五日印刷
大正三年八月十八日發行

譯者　シ、エル、ブラウン

發行者　久留米市日吉町五十三番地
ゼ、ピ、子ルセン

印刷者　横濱市太田町五丁目八十七番地
村岡平吉

印刷所　東京市京橋區銀座四丁目一番地
福音印刷合資會社東京支店

發行所　久留米市日吉町五十三番地
ゼ、ピ、子ルセン